

# 2017年度 厚生労働省のモデル事業にチャレンジ!

人口減少・少子高齢化社会の課題と向き合い、  
コミュニティづくりに取り組みました。

当法人は、国のモデル事業を受託し、  
2017年10月から2018年3月まで実施しました。

活動期間は、実質3ヶ月。

住民やNPO法人、大学、幼稚園、地場企業、  
行政等の方々が集まり、6プロジェクトを実践。

人口減少・少子高齢化社会を生き抜く、  
次の一歩が見えてきました。



安武ほんによかね  
3ヶ月ママチャレンジ

## 地縁型コミュニティ × テーマ型コミュニティ × 若者

今回の事業で重視したことは、混ざり合い、そして、同じ目的をもってアクションを起こすことで素敵な関係性や循環を創りたいということ。そこで、地域の自治会や民生委員などの「地縁型コミュニティ」、障がい児者の保護者が集まった親の会や住民で女性の活動を支援するNPO法人の「テーマ型コミュニティ」、そして子育て中の「若い世代」に声を掛けました。これまで近所で暮らしながらなかなか混ざり合うことのなかった皆さんを掛け合わせたことで、今、新しい風が吹き始めています。

実は、若者はコミュニティと聞くと煩わしく思うだろうと予想していましたが、意外にも積極的にコミュニティづくりに参画。普段、人とのつながりが弱くて孤立し、か

つ、将来への不安が渦巻いているからでしょう。子育て中の親同士、初対面の人にも次々と声を掛けて、賑わいさえ見せています。

約3ヶ月間の取り組みを終えて見えてきたもの、それは誰もが「担い手」になれるということでした。例えば、これまで支えられる立場とされている重度障がい児者や生まれたばかりの赤ちゃん、看取りの時を迎える高齢者の存在そのものが地域の皆さんを結びつける担い手そのものなのです。

今後も行政頼りではなく、さまざまなコミュニティの皆さんと共に「自分たちでやろう」とアクションを起こし、つながりと信頼関係を積み上げていきたいと思えます。

### 6プロジェクトの 紹介

- ①実施目的
- ②実施団体
- ③実施内容

#### 安武ほんによかね 【安武小校区】

- ①住民の参画を促しての拠点づくり 若い世代の参画(地域デビュー)を促す
- ②一般社団法人「ほんによかね会」  
(安武校区まちづくり関係者・地域食堂運営会・社会福祉法人拓く・メリコア・子育て中の親たち)
- ③住民の支え合いの組織である「(一社)ほんによかね会」の設立  
活動拠点施設「JAくるめ安武農産物直売所そらまめ」の整備、直売所・地域食堂の運営。  
地域交通(乗合いタクシー方式)「安武あいあい交通」の普及  
若い世代の地域デビューを促す「3ヶ月ママチャレンジ」の実施

#### 輪をつくろう 【江南中校区】

- ①地域で暮らす障がい児者の保護者同士、教員、地域の企業や店との交流の場づくり
- ②小中学校・久留米市手をつなぐ育成会・聖マリア学院大学・障がいのある小中学生の保護者
- ③江南中校区の小中学校に呼びかけ親の会を結成。食事会、スマホ教室、スポーツ大会等を実施。  
障がい児者にも優しい「地域いいね」マップづくり・配布